



特別支援教育における 主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた 指導実践に関する調査研究(1年目/2か年研究)

総合教育センター 特別支援教育担当

I 研究の概要

1 研究主題設定の理由とその背景

- (1)「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(平成28年12月)
- (2)新学習指導要領の公示
- (3)埼玉県特別支援教育教育課程編成要領の作成

2 研究の目的

- (1)特別支援教育における「主体的・対話的で深い学び」の要点を整理する。(1年次)
- (2)特別支援教育における「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた指導を実践するにあたっての課題や授業改善の視点を整理する。(1年次)
- (3)特別支援教育に携わる教員に向けて、授業改善のヒントになる指導事例及び実践報告をまとめ、広く発信する。(2年次)

3 研究の方法

- (1)文部科学省資料および先行研究等の分析を行う。
- (2)教員に対して「主体的・対話的で深い学び」に関する意識調査を行う。
- (3)「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた指導実践の授業研究を行う。
- (4)指導実践を報告書にまとめ、広く教員等へ発信する。

調査研究(1年次)

研究主題：特別支援教育における主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた指導実践に関する調査研究

①学習指導要領の把握
・主題についての理解

②アンケート調査
・年次経験者研修受講者等
・特定研修受講者等
・市教育研修会

現状と課題・授業改善の視点の整理

授業実践

振り返り・再検討

実践報告(2年次)

授業実践

「実践事例集(仮)」の作成

図1 本研究の全体像

II 「主体的・対話的で深い学び」の視点の理解

1 中央教育審議会答申(平成28.12)の要点

- (1)何ができるようになるか - 育成を目指す資質・能力 -
- (2)何を学ぶか - 教科等を学ぶ意義と教科等間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成 -
- (3)どのように学ぶか - 各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実 -
- (4)子供一人一人の発達をどのように支援するか - 子供の発達を踏まえた指導 -
- (5)何が身に付いたか - 学習評価の充実 -

2 主体的・対話的で深い学びの実現

- (1)学習指導要領の「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」について記述

3 先行研究等の分析

- (1)「能動的に学習する力をつける! ~PDCAを循環させて学びを活性化しよう!」
国立特別支援教育総合研究所 神山 努 氏
- (2)「知的障害教育における『育成すべき資質・能力』を踏まえた教育課程の編成の在り方」
調査成果報告書平成27年度~平成28年度
国立特別支援教育総合研究所

4 特別講義「特別支援教育における主体的・対話的で深い学びについて」

- (1) 主体的・対話的で深い学びとの視点と、特別支援教育における主体的・対話的・深い学び
- (2) 育成を目指す資質・能力
- (3) 学習評価

国立特別支援教育総合研究所 神山 努 氏



Ⅲ 「主体的・対話的で深い学び」の視点に関する意識調査

1 アンケート調査について

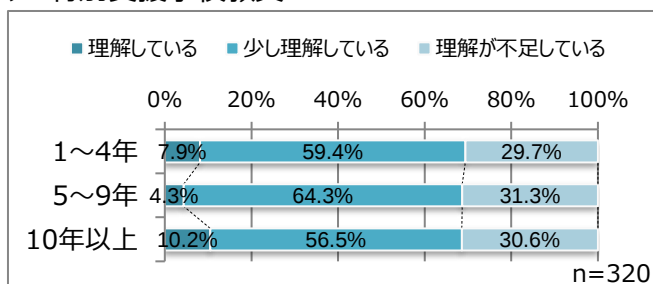
主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた指導実践について、教員の意識や指導状況等を把握し、課題や疑問点を明らかにするため、アンケート調査を実施した。

- ・特別支援学校年次経験者研修受講者（初任者研修、5年経験者研修、中堅教諭等資質向上研修）
- ・特定研修受講者（特別支援学級新担当教員研修会）
- ・A市教育研修会参加者（特別支援学級担当者）

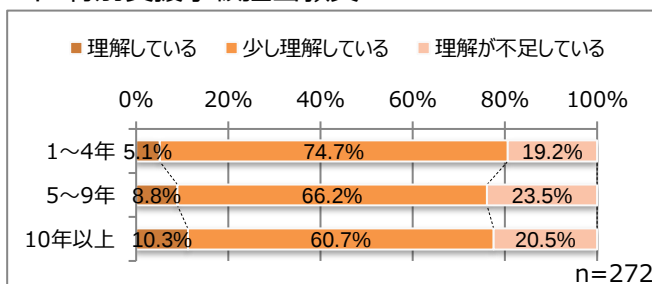
2 アンケート調査の結果と考察

○【「主体的・対話的で深い学び」の理解】（問6）※自身の主観に基づく回答（未記入分は除く）

ア 特別支援学校教員

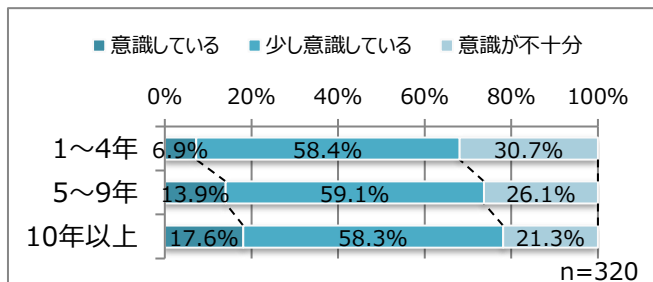


イ 特別支援学級担当教員

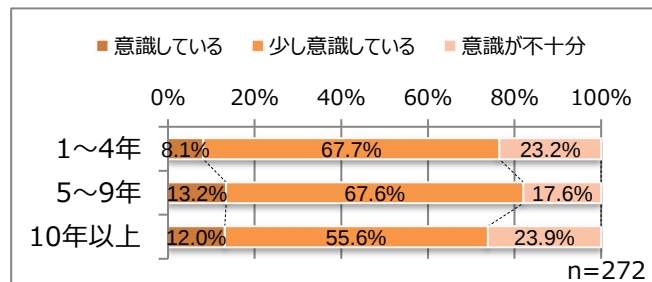


○【「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業改善の意識】（問7）※自身の主観に基づく回答（未記入分は除く）

ア 特別支援学校教員



イ 特別支援学級担当教員



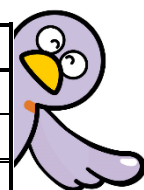
問6、問7において「理解している」「意識している」が約1割、「少し理解している」「少し意識している」が約6～7割、「理解が不十分」「意識が不十分」が約3割と、特別支援学校、特別支援学級教員の回答結果のバランスはほぼ同じであった。

教職経験年数別では、経験年数が増えることで特別支援学校においては意識していると答えた教員の割合は増えているが、特別支援学級担当教員においては教職経験年数との関連性は見られなかった。

○【「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた授業実践】（問8）

「実践している」及び「実践できそう」な各教科等で記述の多かったもの（上位5例）

	国語	自立活動	算数・数学	生活単元学習	保健体育
実践している	123	111	87	108	61
実践できそう	124	88	110	74	54
計	247	199	197	182	115



「実践している」「実践できそう」な教科の記述は、国語、自立活動、算数・数学、生活単元学習、保健体育、が上位であった。「主体的・対話的」な活動をイメージしやすい各教科等が上位になったと考えられる。「『全ての教科』で実践できそう」と記述している教員もいれば、「イメージができませんでした」と記述している教員もいた。

自由記述方式で「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」について具体的な実践例を求めると、記入された実践例の数に明確な差が見られた。

「主体的な学び」の実践例は全体の 7 割近くが実践例を挙げているのに対して、「対話的な学び」については約 6 割、「深い学び」においては約 4 割が実践例を挙げるにとどまった。

この3つの学びの差は、いずれの校種も同様に見られ、「深い学び」に対する理解の難しさがあると考えられる。

	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
特初研	83	65	44
特５研	79	65	51
特中研	47	37	29
特学級新担	169	146	114
A市	42	35	23
合計	420	348	261

- 生活単元学習のように体験を伴った授業のほうが取り組みやすいと考えていることが分かった。学んだことを実際
の場で活かすタイプの授業も、イメージしやすかったようだ。
- 実践は難しいと考えている、または不安に感じている教員が多い。
- 具体的な実践事例を知りたいと思う教員が多い。
- 取り組んでいる各教科等は様々だが、対象とする児童生徒の実態把握を大切にしている、実態に基づいた授業
の工夫をしていることが感じられた。など

1 特別支援学校と特別支援学級における授業実践

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| ○小学校(自・情) 教科別の指導「国語」 | ○中学校(自・情) 教科別の指導「技術・家庭」 |
| ○中学校(知的、自・情)「生活単元学習」 | |
| ○特学校・小学部(知的)「生活単元学習」 | ○特学校・小学部(知的)「自立活動」 |
| ○特学校・中学部(病弱) 教科別の指導「音楽」 | ○特学校・高等部(知的) 教科別の指導「数学」 |
| ○特学校・高等部(知的) 教科別の指導「音楽」 | |

8つの実践事例を掲載

校種(障害名) 「教科等名」
題材・単元等名 「〇〇〇〇」

■はじめに

単元や題材について、本授業設定の意図、工夫したこと、授業全体に対する思いなどを記述。

■学級及び児童(生徒)の実態

言語面、認知面、運動面に関することや、単元に関連したこれまでの学習などを記述。

■教材の目標

■指導計画 ○時間 (〇〇分×〇回 本時は九数字)

時数	主な学習活動	目標

■評価の観点

<知識・技能>

<思考・判断・表現>

<主体的に学習に取り組む態度>

評価の観点は左記の3つの観点で示した。

■主体的・対話的で深い学びの視点

「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を1時間に全て盛り込むのではなく、単元全体を通して全てに触れているということが分かるように記述。また、一つの手立てが複数と重なることもあることに留意している。

■本時の展開 (〇/〇時間目)

本時の共通目標

本時の主体的・対話的で深い学びの視点

本時の目標以外に、本時の「主体的・対話的で深い学び」の視点を記述。

配時	主な学習活動	・指導上の留意点 ◎評価の観点	準備物

■授業を振り返って

【指導計画について】

【本時の学習活動について】

【学習の評価について】

授業後の振り返りとして、前時までにどのように取り組み、本時の授業がどうであったかの反省、次時以降の展望等を記述。また、学習評価や「主体的・対話的で深い学び」の視点についても、児童生徒の姿容を見取り、成果や課題を記述。

授業参観シート

観点など 主目的な学びに 関わること	手立て	児童・生徒の様子
-学習の進捗し -学習の振り返り -積極的な活動		
対話的 な学びに 関わるこ と	-学習指導 の工夫 -言葉でのやりとりを めもめる ほか、多様な 対話の在り方	
深い学 びに関 わること	-知識や技能の活用 -問題の発見等の課題解決 -各教科等との関連や考え方を働かせる学び	

○その他、授業参観して、今後の研究の参考となる点はどこでしたか。

授業者()
 授業参観者()

◎本日の授業について、参観してくれたことや感想等を具体的に記述してください。
 をてを理する必要はありません。

授業評価シート(教員用)

 ● 授業を受けた児童生徒への印象
対象児童生徒()き

 ○教員のどのような発問や声かけが効果的であったかを記入(褒賞支援)も可
児童・生徒の反応「 」

 ① 行為的側面から気づいた様子
最敬称の姿
 1 行いを始める
2 一生懸命に取り組む
3 努力する
4 試行する
5 持続的に取り組む
6 熱心に取り組む

授業者の主体的・対話的で深い学びの手立てと児童生徒の姿を記録する「授業参観シート」

健康評価シート（教員用）

● 採集を受けた児童生徒の様子から、該当する項目の番号に○をつけてください。

対象児童生徒（ ）さんについて、本日の授業全動の様子から、回答してください。

○教員の言葉がけ（視覚支援も）「
 児童・生徒の姿容（ ）さんが
 」と言ったときに
 」変わった（具体的に

3. 行動的側面から気づいた様子

意欲的な姿	意欲でない姿
1 行を止め始める	1 安動での先延ばししようとする
2 一生懸命に取り組み	2 課題に焦点が向いておらず不注意
3 努力する 4 尽力する	3 あきらめない 4 身を引く
5 試行する	5 落ち着かない 6 注意散漫
6 持続的に取り組み	7 持久less状態 8 準備不足
7 熱心に取り組む 9 専断する	9 気乗りがいない 10 不参加

2. 感情的側面から気づいた様子

意欲的な姿	意欲でない姿
1 情熱的である 2 興味を示している	1 退屈している 2 興味がない
3 楽しんでいる 4 満ち足りている	3 楽しんでいる 4 不満げである
5 誇りを感じている	5 誇っている 6 恥じている
6 誇りを活かしている	7 恥じている 8 不安を感じている
7 誇りを活かしている	9 自己非難している

1. 認知的側面から気づいた様子

意欲的な姿	意欲でない姿
1 目的を自覚している	1 無目的である 2 無力な状態である
2 グローブ手する	3 あきらめている 4 気の進まない状態である
3 目標達成のため努力する	5 反抗的である 6 困窮していない
4 目標達成のため 5 積極的に参加する	7 回避的である 8 無関心である
6 集中する 7 注意を向ける	9 絶望している 10 精神的圧迫を受けている
8 チェンジャを求めめる	
9 注意を払って最後までやり抜く	
10 細部まで丁寧に几帳面である	

○本時（または本単）で成果を目指す資質・能力が身に付きましたか。（どんな能力、どの程度）

○その他、気付いたことなど。

**児童生徒の変容を
見取るための
「授業評価シート」
(参観者・授業者用)**

授業実践例

小学校特別支援学校（自閉症・情緒障害）教科別指導「国語」 題材名 「くわしく書こう！」														
■はじめに S・Tペアの内容をいっしょに見る。最後まで読んで聞かずに読み、友達と会話のキャッチボールがしたい。そのように児童に様々な会話の例文を付け、話を細やかに聞いてもらう。コミュニケーションの充たれたとき、日記や作文の内容やパターンなどについて児童に見てお話し書き表す力をつけたい。そのようなことを重視した授業である。 ■学級及び児童の実態 - 友達同士ばかりでなかなか話しかけられず、進んだことが多く同じ内容のやり取りが多い。 - 相手の話に興味を持ち、そこそこの反応は返すが、そこそこの反応を返してあげるという態度がある。 - 指示の聞き違いがあり、細かいところまで意識しなくていいから手先がある。 - 経験したことと関係系にあることができる。 - 自分の気持ち、または色や音を入れて日本人を書くことと理解が不足している。 ■教材目標 - 自分の思いや考えを相手に伝え、相手の話に関心をもち聞くことができる。 - 見たとこも思い出して発表することができる。 - 文章をよく読み書き表そうとすることが出来る。 ■指導計画 8時間（45分×8回 本時は1人対数） <table border="1"> <thead> <tr> <th>時数</th><th>主な学習活動</th><th>目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1・2</td><td>のぞきみよ！何が見えるかな？</td><td>見たことを見たとおりに書き表すことができるようになる。</td></tr> <tr> <td>3・4</td><td>耳をすまよう！どんな音が聞こえるかな？</td><td>様々な音に気が付き、聞いた音を書き表すことができるようになる。</td></tr> <tr> <td>5・6</td><td>くわしく書いて！</td><td>見たことを思い出して発表することができる。 文章をよく読み書き表すことができるようになる。</td></tr> </tbody> </table> ■評価観点 <思考・判断・表現> - 自分の思いや考えを相手に伝え、相手の話に関心をもち聞くことができる。 - 見たとこも思い出して発表することができる。 <主体的に学習に取り組む態度> - 文章をよく読み書き表そうとすることができる。 ■主体的な対話的深い学びの視点 ① Cルーサーズでのペアの容体確認などが新築することと話すこと、聞くことの意識が高まる。(主体的な学び)(対話的な学び) ② 聞くこと、聞かれたこと、感じたことなどによって言葉と意図とを整理することと書くことに対する抵抗感減らし、意欲が高まる。(主体的な学び)(深い学び) ③ 書く(書いた)ことを教師が検閲したり、児童に発表せられたりして強化すると全体のスキルが高まる。(対話的な学び)(深い学び) ■本時の展開(6/8時間目) 本時の共通目標 - 自分の思いや考えを相手に伝え、相手の話に関心をもち聞くことができる。 - 見たとこも思い出して発表することができる。 - 文章よく読み書き表そうとすることができる。 ■主体的な対話的深い学びの視点 - 書く(書いた)の視点と考える、その視点を補強していくことで理解する。新たに気づいたことを発表、板書きする1人毎の振り返り。また、全ペアを発表する自分の発表の振り返りとともに書き出した内容を振り返る。	時数	主な学習活動	目標	1・2	のぞきみよ！何が見えるかな？	見たことを見たとおりに書き表すことができるようになる。	3・4	耳をすまよう！どんな音が聞こえるかな？	様々な音に気が付き、聞いた音を書き表すことができるようになる。	5・6	くわしく書いて！	見たことを思い出して発表することができる。 文章をよく読み書き表すことができるようになる。	配時 (分) 主な学習活動 1 2 1 あいさつ 2 本時の活動内容を知る 1 サイコロワーク 2 見て書く 3 聞いて書く 3 サイコロワーク 1 0 4 よく見る - ビデオを見て内容を読み出して発表する。 2 3 5 くわしく書く - 書く(書いた)の視点を確認する。 - もう一度ビデオを見て新しい発見を発表する。 - 文を読む書き直す。	-指導上の留意点 の評価の観点 準備物 サイコロワーク表 1 Cルーサーズ 拡大印刷された資料 ビント紙 ■授業観照ビデオ 【指導計画通り】 - 本人と書くことができず自ら書く(書いた)ことを主体的な態度で身に付けていく考えている。どんなことでもよいので、書けたことと認めていくことは児童は意欲的にやっている。 - 目標を持って発表できるように自分から積極的に発言しようとする姿勢が顕著になってきている。 - 前時には、自分から文章(再構成)の手帳を確認し、一度書いて文章を書き直す場面でも明らかに意欲の減退が見られない。本時では書く(書いた)行動一回、一回だけだ。 【本時の学習活動について】 - 話すこと、聞くことが苦手な児童も自分の意思で発言ができたり話せるようになったり友達のスピーチの細部にまで注意して聞くことができるようになったりしている。 - 書く活動一回、一回だけだった。前に気づいていないことも自ら発表したいというところが増えてきたことと児童の書く(書いた)意欲の高まりがあった。 - V1 Cルーサーズを見た後すぐに確認したり、書いた文章をプロジェクターで写しながら発表させたりすることと児童情熱・視覚情報・両面での児童の集中を持続させることができた。 - 書くためのきっかけ創言することと安心して書き始めた。また、できてきたことと認めることで後にも自信をもって書くことができる。 【学習の評価について】 - 言葉による表現・模範的な部分はないが正しい表現・訂正する場面でも自ら書く(書いた)直すことができたことに対して褒め賞賛することで満足感を得ていた。 - V1 Cルーサーズで書いた後に自分が行った活動を即時評価していたことと次にスピーチをする児童のためにも明確な、意欲的発言ができた。 - 書く(書いた)もの新たな気持で文章を完成させ、書き直すと評価された。どこに注目して見ればいいのか分からない、目標に到達しないのを心配していた。 【主体的な対話的深い学びの視点について】 - V1 Rで視察したり、ビントの組紐を使ったものが教師の適切な対話中に表示力が高まった。 - 教師の活動を集めて聞く、提示資料映像機資料を見る。自分から発表する等、自らと向き合っていることと主体的な活動をした。 - 書く(書いた)目的は達成できていて最後のシートが全ての児童がかなり書くことができていた。 - 児童間の話し合いはお互いに認めあっていたが教師介入の機会もなく話し合いと発表であった。 - たった何回かしかグループごとに比べてみるという意欲が育ちつつある。 - 書く(書いた)ものを発表していきなり褒められていた。
時数	主な学習活動	目標												
1・2	のぞきみよ！何が見えるかな？	見たことを見たとおりに書き表すことができるようになる。												
3・4	耳をすまよう！どんな音が聞こえるかな？	様々な音に気が付き、聞いた音を書き表すことができるようになる。												
5・6	くわしく書いて！	見たことを思い出して発表することができる。 文章をよく読み書き表すことができるようになる。												

[illegible]

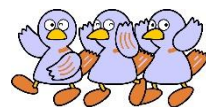
V 研究の成果と今後の課題

1 成果

- 特別支援教育における「主体的・対話的で深い学び」の要点整理について
委員会での協議や講義の中で調査研究協力委員や事務局自身の学びも大きかった。
- 教員に対して特別支援教育における「主体的・対話的で深い学び」に関する意識調査について
児童生徒の実態をもとに、興味関心のある内容を精選し、見通しを持たせながら授業を展開するという「主体的」な学びを促す意識は大変高かった。しかし、「主体的・対話的で深い学び」の理解がまだ曖昧であること、実践できている教員が少ないことなどが分かった。
- 「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた指導実践について
「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業をするにあたり、一時間の授業で全てを盛り込むということではなく、単元などのまとまりを通して実践していくということが確認できた。また、授業の導入やまとめの時間を効果的に設定し、指導と評価を一体化することが、見方・考え方を働かせ「深い学び」となるために重要であることが認識できた。

2 課題

- 特別支援教育における「主体的・対話的で深い学び」の理解啓発
イメージが湧きにくい、障害のある児童生徒には難しいという意見が多い。これらの疑問や悩みを解消し、より多くの教員に活用される**実践事例集**を作成することが求められている。
- 授業改善の意識の醸成
「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた指導は、新しいことをしなければならないということではないが、これまで通りでよいとも言いきれない。児童生徒の変容を見取り、学習方法や学習評価の在り方を常に見直し、授業改善を図っていかなければならない。
- 授業研究の在り方の見直し
児童生徒の既習の知識・技能の活用の様子や思考の様子、変容、他教科等や日常生活で般化されていくかを見取る「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえ、授業改善を図ることがこれまで以上に大切である。



研究報告書は、埼玉県立総合教育センターのホームページから閲覧できます。
⇒<http://www.center.spec.ed.jp>